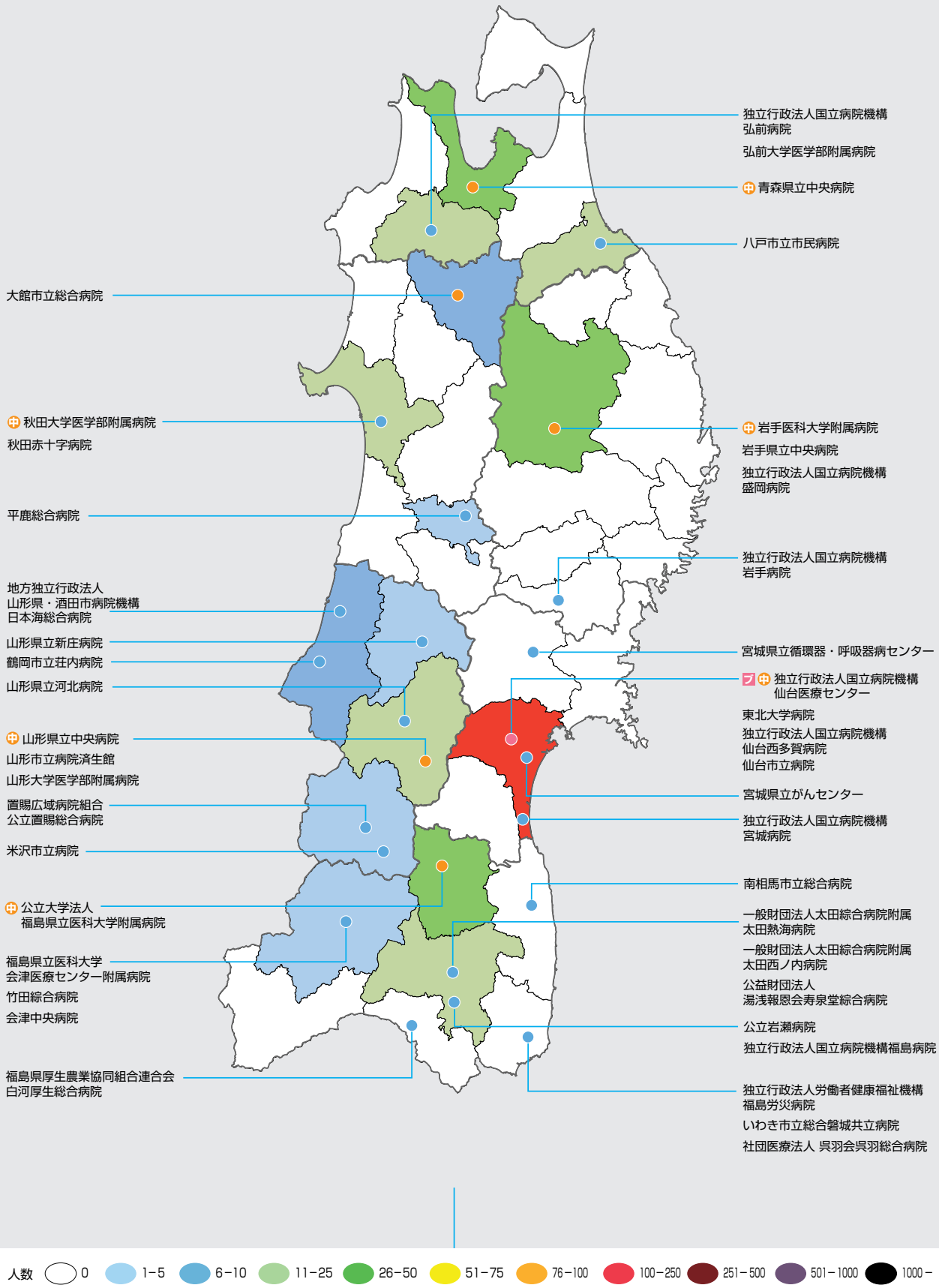
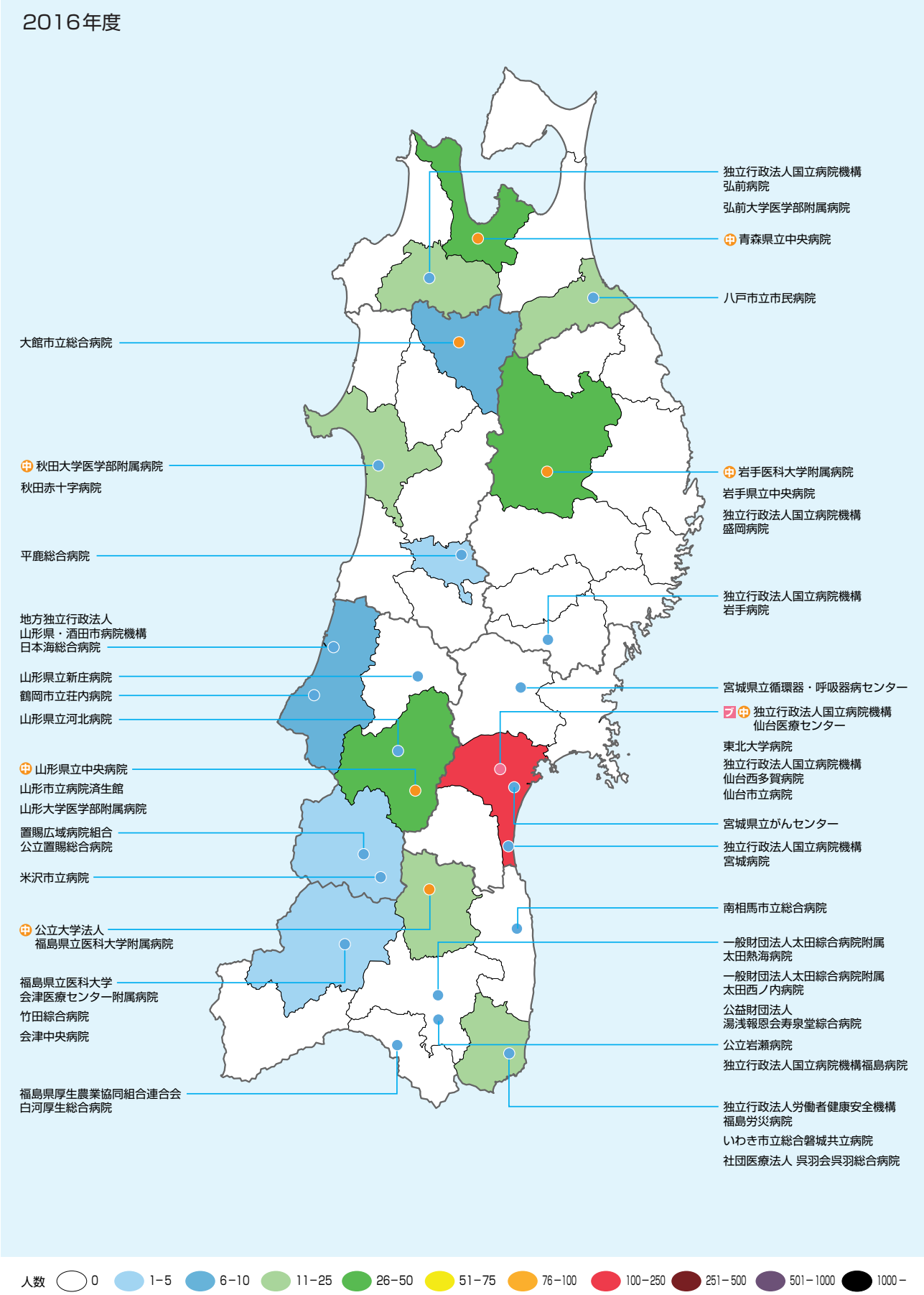
HIV診療の現況報告　東北ブロック

研究分担者　伊藤 俊広（(独)国立病院機構仙台医療センター HIV/AIDS包括医療センター 室長）

2015年度




2016年度
独立行政法人国立病院機構
弘前病院
弘前大学医学部附属病院
中 青森県立中央病院
八戸市立市民病院
大館市立総合病院
中 秋田大学医学部附属病院
秋田赤十字病院
中 岩手医科大学附属病院
岩手県立中央病院
独立行政法人国立病院機構
盛岡病院
平鹿総合病院
独立行政法人国立病院機構
岩手病院
地方独立行政法人
山形県・酒田市病院機構
日本海総合病院
山形県立新庄病院
鶴岡市立荘内病院
山形県立河北病院
宮城県立循環器・呼吸器病センター
ブ 中 独立行政法人国立病院機構
仙台医療センター
東北大学病院
独立行政法人国立病院機構
仙台西多賀病院
仙台市立病院
中 山形県立中央病院
山形市立病院済生館
山形大学医学部附属病院
置賜広域病院組合
公立置賜総合病院
宮城県立がんセンター
独立行政法人国立病院機構
宮城病院
米沢市立病院
南相馬市立総合病院
中 公立大学法人
福島県立医科大学附属病院
一般財団法人太田綜合病院附属
太田熱海病院
一般財団法人太田綜合病院附属
太田西ノ内病院
福島県立医科大学
会津医療センター附属病院
竹田綜合病院
会津中央病院
公益財団法人
湯浅報恩会寿泉堂綜合病院
公立岩瀬病院
独立行政法人国立病院機構福島病院
福島県厚生農業協同組合連合会
白河厚生総合病院
独立行政法人労働者健康安全機構
福島労災病院
いわき市立総合磐城共立病院
社団医療法人 呉羽会呉羽総合病院
人数
0
1−5
6−10
11−25
26−50
51−75
76−100
100−250
251−500
501−1000
1000−

東北ブロックのHIV医療体制整備

研究分担者　伊藤 俊広
(独)国立病院機構仙台医療センター
HIV/AIDS包括医療センター　室長

研究結果

1．診療実態調査

平成28年9月時点で東北ブロックにおけるHIV感染者の累計は578人で平成26年9月から2年間で57人の新規報告があった。この間のいきなりAIDS例は新規報告の42.1％であった（図1、2）。平成28年10月に行われた拠点病院対象のアンケート調査（表1）では全拠点病院42施設のうち現在実際に患者を診療している施設は平成27年同様26施設（残りの16施設は患者0人）であり、現在診療が行われている患者の85％は大学病院もしくは中核拠点病院で加療されていた。その内、薬害被害者（血友病）は47例中31例は中核拠点病院、それ以外は以前から血友病診療にかかわってきた施設で診療されていた。施設現状報告によれば、症例不足や経験不足からくる対応不安、関心低下や付随する啓蒙活動の低下、そして人材の不足、専従(専任)看護師の不在、職種間ネットワークが形成できない（すなわちチーム医療加算がとれない）などの問題が生じていること、比較的患者診療が行なわれている施設からは次世代診療医師の育成問題、患者高齢化を意識した合

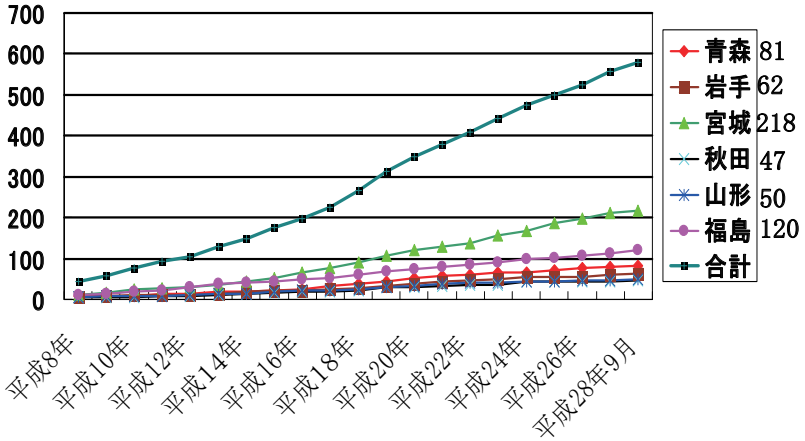


図1　東北県別エイズ/HIV感染者累積数推移（非血友病）総計578人（H28.9月）

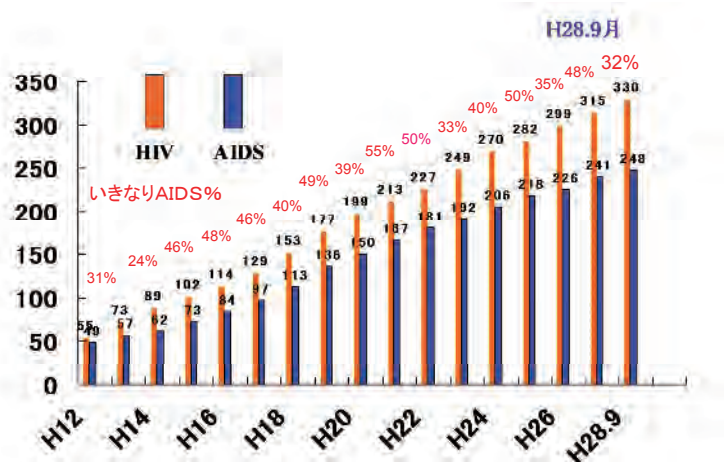


図2　東北エイズ/HIV患者累積数推移（H28.9月）

併症管理や介護・福祉関連問題が指摘されている。

診療体制の構築を進める上では感染不安を解消することが重要であり、そのためにもHIV暴露時の対処マニュアルの整備・実施が行なわれてきた。平成27年度行政を対象にその実態を調査した（表2）。すべての自治体でマニュアルは整備されているものの①周知の確認が行なわれていない、②予防薬の供給・配置に地域差がある、③予防薬投与基準に地域差がある、④対象は医科が中心であり、歯科・介護福祉施設・一般まで及んでいないなどの問題を有していた。

2．H27年度、28年度に本研究に関連し実施・参加された会議・研修会・内容を以下に記す

東北エイズ/HIV看護研修（H27.10.30、H28.9.30: 仙台）、東北HIV歯科拠点病院等連絡協議会（H28.2.12、H29.2.18:仙台、予定）、東北ブロック・エイズ拠点病院等連絡会議（H27.6.23: 秋田、H28.6.21: 盛岡）、東北エイズ/HIV薬剤師連絡会議（H27.10.24、H28.10.22: 仙台）、東北エイズ臨床カンファレンス（H28.2.6、H29.2.11:仙台、予定）、東北HIVネットワーク会議（H28.2.6、H29.2.11: 仙台、予定）、仙台医療センター健康まつりHIVパネル展（H27.10.24、H28.11.5: 仙台）、東北ブロック・エイズ拠点病院等連絡会議（H28.1.12、H29.1.11: 仙台）、HIV/AIDS包括医療センター出張研修①青森県立中央病院（H27.5.15）、②岩手県立中央病院（H27.7.31）、③南相馬市立総合病院（H27.11.6）、④秋田大学病院（H28.5.20: 秋田）、⑤国立病院機構弘前病院（H28.7.22: 青森県弘前市）⑥寿泉堂病院（H28.10.28: 郡山）

HIV関連講義依頼（平成28年度）：宮城県精神医療センター、仙台市立仙台工業高等学校保健講和、仙台医療センター看護・助産学校講義、国立病院機構山形病院付属看護学校講義、エイズ予防財団委託事業：HIVと性感染症講演会（歯科医師会）。

行政連携：仙台市エイズ性感染症対策推進協議会、仙台市HIV即日検査会、同性愛者等のHIVに関する相談・支援事業協議会（エイズ予防財団）。

薬害関連：薬害エイズ裁判和解20周年記念集会、長期療養とリハビリ検診会（はばたき事業団）、HIV/AIDS重複感染者患者に対する肝移植に関する公開シンポジウム、etc.

表1　東北エイズ拠点病院診療状況 平成28年10月現在

県	住所	施設名	県合計	総数	経路内訳				
					異性間	同性間	製剤	薬物	不明その他
青森県	青森県弘前市本町53	弘前大学医学部附属病院	72	20	5	12	1	0	2
	青森県弘前市富野町1	独立行政法人国立病院機構　弘前病院		1	0	0	0	0	1
	青森県青森市東造道2-1-1	青森県立中央病院（中核拠点）		35	9	21	2	0	3
	青森県八戸市田向字毘沙門平1	八戸市立市民病院		16	6	6	0	2	2
岩手県	岩手県盛岡市内丸19-1	岩手医科大学附属病院（中核拠点）	38	21	4	11	1	0	5
	岩手県一関市山目字泥田山下48	独立行政法人国立病院機構　岩手病院		0	0	0	0	0	0
	岩手県盛岡市上田1-4-1	岩手県立中央病院		17	4	4	0	0	9
	岩手県盛岡市青山1-25-1	独立行政法人国立病院機構　盛岡病院		0	0	0	0	0	0
宮城県	仙台市宮城野区宮城野2-8-8	独立行政法人国立病院機構　仙台医療センター（ブロ・中核）	211	158	30	106	21	1	0
	仙台市青葉区星陵町1-1	東北大学医学部附属病院		46	4	9	3	0	30
	宮城県栗原市瀬峰根岸55-2	宮城県立循環器・呼吸器病センター		0	0	0	0	0	0
	宮城県亘理郡山元町高瀬字合戦原100	独立行政法人国立病院機構　宮城病院		0	0	0	0	0	0
	仙台市太白区鈎取本町2-11-11	独立行政法人国立病院機構　仙台西多賀病院		5	0	0	5	0	0
	仙台市太白区あすと長町1-1-1	仙台市立病院		2	0	2	0	0	0
	宮城県名取市愛島塩手字野田山47-1	宮城県立がんセンター		0	0	0	0	0	0
秋田県	秋田県秋田市 広面字蓮沼44-2	秋田大学医学部附属病院（中核拠点）	36	25	10	12	2	0	1
	秋田県横手市前郷字八ツ口3番1	平鹿総合病院		2	2	0	0	0	0
	秋田県大館市豊町3-1	大館市立総合病院		8	3	3	2	0	0
	秋田県秋田市上北手猿田字苗代沢222-1	秋田赤十字病院		1	0	0	1	0	0
山形県	山形県山形市飯田西2-2-2	山形大学医学部附属病院	36	9	1	5	1	0	2
	山形県西村山郡河北町谷地字月山堂111	山形県立河北病院		0	0	0	0	0	0
	山形県鶴岡市泉町4-20	鶴岡市立荘内病院		0	0	0	0	0	0
	山形県米沢市相生町6-36	米沢市立病院		0	0	0	0	0	0
	山形県新庄市若葉町12-55	山形県立新庄病院		0	0	0	0	0	0
	山形県山形市青柳1800	山形県立中央病院（中核拠点）		16	2	9	0	0	5
	山形県山形市七日町1-3-26	山形市立病院済生館		2	1	1	0	0	0
	山形県酒田市あきほ町30	独立行政法人山形県酒田市病院機構　日本海病院		8	5	2	1	0	0
	山形県東置賜郡川西町大字西大塚2000	公立置賜総合病院		1	0	1	0	0	0
福島県	福島県福島市光が丘1	福島県立医科大学附属病院（中核拠点）	65	26	8	9	5	0	4
	福島県須賀川市芦田塚13	独立行政法人国立病院機構　福島病院		0	0	0	0	0	0
	福島県会津若松市河東町谷沢字前田21-2	福島県立医科大学会津医療センター附属病院		1	1	0	0	0	0
	福島県いわき市内郷綴町沼尻3	福島労災病院		1	0	1	0	0	0
	福島県郡山市熱海町熱海5-240	太田総合病院附属　太田熱海病院		0	0	0	0	0	0
	福島県白河市豊地上弥次郎2番地1	白河厚生総合病院		0	0	0	0	0	0
	福島県会津若松市鶴賀町1-1	白鳥会総合会津中央病院※		2	0	0	0	0	2
	福島県郡山市西ノ内2-5-20	太田総合病院附属　太田西ノ内病院		23	5	17	0	0	1
	福島県須賀川市北町20	公立岩瀬病院		0	0	0	0	0	0
	福島県会津若松市山鹿町3-27	竹田綜合病院		0	0	0	0	0	0
	福島県いわき市錦町落合1-1	呉羽総合病院		0	0	0	0	0	0
	福島県いわき市内郷御厩町久世原16	いわき市立総合磐城共立病院		11	5	4	2	0	0
	福島県郡山市駅前1-1-17	湯浅報恩会　寿泉堂総合病院		0	0	0	0	0	0
	福島県原町市高見町2-54-6	南相馬市立総合病院		1	0	1	0	0	0
			42施設　合計	458	105	236	47	3	67
				総数	異性間	同性間	製剤	薬物	その他

※歯科等の受診のみでHIV治療のための患者はゼロ（会津中央病院）

表2　東北6県曝露時HIV予防薬配備状況等と拠点病院連携状況（H27年度　H28.1現在）

県	配備状況	配備薬	費用負担	周知方法	マニュアル	使用件数	課題・ご意見
青森県	県内5か所：八戸市立市民病院、十和田市立中央病院、むつ総合病院、つがる総合病院、弘前市医師会（沢田内科医院）	ツルバダ・カレトラ	県	予防薬配置開始時に周知しているが、近年は周知していない	既存マニュアルを参考にしていたが、青森独自マニュアル作成を検討	把握していない	予防薬配置要領が近年改定されていない状況にあり現状とそぐわない部分が多々あり、各配置施設と協議のうえ要領改定と県独自のマニュアル整備をした上、改めて県内周知を図りたいと考えている。
岩手県	岩手医科大学病院（中核拠点病院）および各県立病院	ツルバダ・カレトラ（ただしH28年度よりツルバダ・アイセントレスに変更予定）	薬剤購入は県予算（使用医療機関への費用負担は求めていない）	医師会・歯科医師会及び県内保健所へ通知およびホームページ掲載等	県の配置要領で国立国際ACCのマニュアル準拠するよう定めている	H25:17件 H26:13件（投与人数を計上）	予防薬配置について医療機関を通じ周知しているものの、多く知ってもらうため方法の検討が必要
宮城県	備蓄先である宮城県医薬品卸組合（株式会社バイタルネット、県内4か所に配備）に供給依頼をおこなうシステム。土日祝日や夜間も対応可能。	ツルバダ・アイセントレス	配備→県、供給した場合→供給医療機関	エイズ治療拠点病院、県・郡市医師会等	記載なし	H9～H18 不明 H19～H27 6件	医科のみへの周知に留まっている。
秋田県	中核拠点病院（供給体制の整備委託）	ツルバダ・アイセントレス	県で予防薬を購入	県内医療機関に文書通知および県webページ掲載	取扱要領策定	H26:1件	新薬販売に伴う要領改正の検討が必要となる
山形県	県内8ヵ所の医療機関に対し配布	ツルバダ・アイセントレス	薬剤の費用は県が全額負担（県立病院は補助金として支出し各病院で購入。県立病院以外は各保健所で購入し配備）	記載なし	予防薬配備について県で実施要領を作成	H25年度に2件	事業計画を提出しても計画通りの国庫内示がこない。拠点病院以外への薬の迅速な提供方法について。
福島県	県内エイズ治療拠点病院14医療機関	配備病院ごと（H28.1現在）ツルバダ(30錠)・アイセントレス（60錠）	県	記載なし	マニュアル「福島県針刺し事故等予防薬実施要領」	H27年度カレトラ24錠、ツルバダ7錠	記載なし

県	拠点病院との連携状況	課題・ご意見
青森県	年1回、各治療拠点病院、医療関係団体及び教育関係団体からなる「青森県エイズ対策推進協議会」を開催しており県内のエイズ対策について情報交換をおこなっている。また、県の施策については、中核拠点病院との連絡を密にし、適宜意見交換しながら遂行している。	記載なし
岩手県	主な拠点病院の医師をエイズ対策推進協議会の委員に委嘱しており、普及啓発から医療まで幅広く議論をいただいている。	中心的にエイズ医療を担っている拠点病院に患者が集中している現状がある。中核拠点病院に委託し、各地域で医療介護従事者向けの研修を行っているが、合併症の治療や在宅医療、緩和ケア等を担う一般医療機関や患者の高齢化に伴う介護分野の施設における整備や人材育成が今後一層必要。
宮城県	年2回の東北ブロック・エイズ拠点病院等連絡会議への出席 研修会講師依頼(年1回程度)	一般医、歯科医での診察に関する正しい知識の普及啓発 HIV予防薬配備に係る一層の周知徹底
秋田県	県主催の研修会への共催参加	記載なし
山形県	県主催の連絡会議及び研修会を開催	記載なし
福島県	県主催のエイズ治療拠点情報交換研究会（H25年度開催）、エイズ対策推進協議会（ただし震災以降未開催）	記載なし

考察

東北ブロックにおいては2年間の新規HIV感染者は57人で新規感染者の増加傾向は観察されていない。いきなりAIDS発症率は平成26年9月から平成28年9月までの2年間で42.1%（24/57）であり、依然高い数値を維持している。hard to reach層をHIV受検に導く方法を今後も模索する必要がある。診療経験の少なさからくる諸問題の解決は症例検討を通した疑似体験や研修会を繰り返し行っていくしかない。前年度（平成27年度)より始まったHIV/AIDS包括医療センター出張研修は2年目（平成28年度）も3施設で行うことができた。秋田大学病院への研修では職員・学生を含め300人の参加者を募ることができ、特に学生に対しては特別講義の形で教育の一環として関与できた意義が大きい。教職員全体のHIV感染症に対する関心の高さも実感できた。HIV感染者の高齢化への対策として、種々の合併症に対処するためのHIV情報を、一般診療所のレベルからケアを中心的に担う介護施設などの福祉関連機関へと波及させ、研修会・講演会を始めとした地方自治体および中核拠点病院における積極的な活動を継続して行なっていくことが必要である。歯科領域では中核拠点病院歯科連絡会議を通して診療ネットワークが構築されつつあるが、歯科クリニックや在宅歯科との連携はこれからの課題である。拠点病院間（ブロック拠点、中核拠点、拠点）だけでなく、一般クリニックや介護・福祉施設をまきこんだ研究活動を行っていく必要がある。診療体制構築する上で感染不安の除去は重要であり、今後も暴露時の体制を整え、周知させていくことが今後も必要である。

結論

東北においては新規HIV感染者の増加は観察されていない。しかし、平成28年9月までの2年間でAIDS発症率（いきなりAIDS率）は42.1%であり、依然としてが高い数値が続いている。HIV検査受検数を増やす努力を今後も継続していく必要がある。感染者の絶対数が少ないことはHIV感染症に対する関心度を下げ、診療体制の整備を進めていく上でのハンディとなりうるが、研修・会議を繰り返し実施していくことで今後も医療・行政・教育・NGOなど種々の職種間との連携を深め、体制整備を進めていく必要がある。

研究発表

1．原著論文

1) 須貝　恵、吉用緑、センテノ田村恵子、鈴木智子、辻典子、井内亜紀子、濱本京子、田邊嘉也、伊藤俊広：診療案内からみる拠点病院の現状、日本エイズ学会誌第17(3)、184-186、2015
2) 金子典代、塩野徳史、内海眞、健山政男、鬼塚哲郎、伊藤俊広、市川誠一. 成人男性のHIV検査受検、知識、HIV関連情報入手状況、HIV陽性者の身近さの実態－2009年調査と2012年調査の比較－：日本エイズ学会誌　2016、受理
3) 須貝恵、吉用緑、センテノ田村恵子、鈴木智子、辻典子、築山亜紀子、濱本京子、田邊嘉也、伊藤俊広. 拠点病院診療案内2014年度版からみる拠点病院・中核拠点病院の現状：日本エイズ学会誌18(3)、253-255、2016

2．学会発表

1) 阿部憲介、佐藤麻希、國本雄介、神尾咲留未、小山田光孝、塚本琢也、鈴木智子、佐々木晃子、伊藤ひとみ、佐藤　功、伊藤俊広：HIV研修参加薬剤師のグループディスカッション形式症例検討における意識変化に関する調査：第29回日本AIDS学会、2015、11月、東京
2) 岡崎玲子、蜂谷敦子、潟永博之、渡邉　大、長島真美、貞升健志、近藤真規子、南　留美、吉田　繁、小島洋子、森　治代、内田和江、椎野禎一郎、加藤真吾、豊嶋崇徳、伊藤俊広、猪狩英俊、上田敦久、石ヶ坪良明、古賀一郎、太田康男、山元泰之、福武勝幸、古賀道子、西澤雅子、林田庸総、岡　慎一、松田昌和、服部純子、重見　麗、保坂真澄、横幕能行、中谷安宏、田邊嘉也、白阪琢磨、藤井輝久、高田昇、高田清式、山本政弘、松下修三、藤田次郎、健山正男、杉浦　亙、岩谷靖雅、吉村和久：本邦の新規HIV/AIDS診断症例における薬剤耐性HIVの動向：第29回日本AIDS学会、2015、11月、東京
3) 阿部憲介、佐藤麻希、若生治友、屋地慶子、神尾咲留未、水沼周市、伊藤俊広、小山田光孝：当院薬学部実務実習生に対するHIV感染症AIDS関連教育プログラムの実施、第69回国立病院総合医学会、2015、10月、札幌
4) 阿部憲介、佐藤麻希、小山田光孝、神尾咲留未、近藤旭、鈴木智子、伊藤俊広、畝井浩子、吉野宗宏、木平健治：宮城県における学校薬剤師と病院薬剤師の連携による性感染症予防啓発を進めるための基礎調査とその後の展開：平成27年度北海道地区国立病院薬剤師会秋の学術大会、2015、10月、札幌
5) 神尾咲留未、阿部憲介、小山田光孝、伊藤俊広：テノホビルジソプロキシルフマル酸塩

（TDF）による腎機能への影響に関する検討、第9回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会、2015、10月、仙台

6) 阿部憲介、神尾咲留未、近藤　旭、水沼周市、若生治友、佐藤麻希、内山真理子、齋藤直美、屋地慶子、吉野宗宏、伊藤俊広、小山田光孝. 薬学部実務実習生に対するHIV感染症/AIDS関連基礎的調査と教育プログラム実施による効果の検討：第146回宮城県病院薬剤師会学術研究発表会、仙台、2016

7) 神尾咲留未、阿部憲介、近藤　旭、小山田光孝、真野浩、伊藤俊広. 当院における血友病HIV・HCV重複感染者の治療の現状：第146回宮城県病院薬剤師会学術研究発表会、仙台、2016

8) 岡崎玲子、蜂谷敦子、潟永博之、渡邉　大、長島真美、貞升健志、近藤真規子、南　留美、吉田　繁、小島洋子、森　治代、内田和江、椎野禎一郎、加藤真吾、豊嶋崇徳、佐々木悟、伊藤俊広、猪狩英俊、上田敦久、石ヶ坪良明、太田康男、山元泰之、福武勝幸、古賀道子、林田庸総、岡　慎一、松田昌和、重見　麗、濱野章子、横幕能行、渡邉珠代、田邊嘉也、藤井輝久、高田清式、山元政弘、松下修三、藤田次郎、健山正男、岩谷靖雅、吉村和久.　国内新規HIV/AIDS診断症例における薬剤耐性HIV-1の動向：第30回日本エイズ学会学術集会、鹿児島、2016

9) 戸上博昭、矢倉裕輝、平野　淳、高橋昌明、吉野宗宏、阿部憲介、神尾咲留未、大石裕樹、竹松茂樹、垣越咲穂、山本有紀、伊藤俊広、山本政弘、水守康之、金井　修、内海　眞、渡邊大、横幕能行、白阪琢磨.　UGT1A1遺伝子多型のドルテグラビル血中濃度に及ぼす影響に関する研究：第30回日本エイズ学会学術集会、鹿児島、2016

10) 神尾咲留未、阿部憲介、近藤　旭、小山田光孝、佐々木晃子、伊藤ひとみ、佐藤　功、伊藤俊広. 抗HIV薬と併存疾患治療薬との薬物相互作用に関する取り組み～一覧票表の作成～：第30回日本エイズ学会学術集会、鹿児島、2016

11) 神尾咲留未、阿部憲介、近藤　旭、平野　淳、戸上博昭、矢倉裕輝、横幕能行、渡辺　大、白阪琢磨、小山田光孝、伊藤俊広. UGT1A1遺伝子多型のdolutegravir血中濃度に及ぼす影響−仙台医療センターHIV症例の検討−：第70回国立病院総合医学会、沖縄、2016

知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1．特許取得

なし

2．実用新案登録

なし

3．その他

なし